

- 問1 北海道の農業は、農業従事者一人あたりの耕地面積が非常に広いことが特徴です。このような土地条件のもとで行われている農業のあり方について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 寒冷な気候による被害を防ぐため、耕地面積を小さく抑え、小規模で多品目な栽培を行っている。 | 2. 土地の生産性を高めるために、多くの労働力を投入する労働集約的な稲作が広く行われている。 | 3. 限られた土地から高い収益を得るため、ビニールハウスなどを活用した施設園芸農業が中心となっている。 | 4. 広大な農地を効率的に管理するため、大型機械を活用した大規模な機械化農業が展開されている。 |
|---|--|---|---|
- 問2 北海道地方の気候の特色について、6月から7月にかけての状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 停滞前線が長期間にわたって停滞するため、年間で最も降水量が多い時期となる。 | 2. 北東から吹く冷たい風（ヤマセ）の影響で、この時期だけ急激に降水量が増加する。 | 3. 梅雨の影響をほとんど受けないため、本州以南で見られるような長期間の雨期がはっきりしない。 | 4. 南東から吹き込む湿った季節風の影響により、本州よりも早く本格的な雨期が訪れる。 |
|--|---|---|--|
- 問3 北海道の東部に位置する根釧台地などの寒冷な地域において、乳牛を飼育して生乳や乳製品を生産する農業を何といいますか。牧草などの飼料生産と組み合わせられていることが特徴です。 (2018年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| 1. 果樹農業 | 2. 酪農 | 3. 促成栽培 | 4. 放牧 |
|---------|-------|---------|-------|
- 問4 日本の国内における旅客輸送の状況について、東京都から北海道への移動を事例として説明した文として、適切なものはどれか。 (2022年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 青函トンネルの開通以降、鉄道による輸送コストが大幅に低下したため、航空機から鉄道への利用転換が完全に完了している。 | 2. フェリーを利用した海上輸送が旅客輸送の中心であり、航空機や鉄道は補完的な手段として位置づけられている。 | 3. 長距離の移動となるため、速達性に優れた航空機の利用が主流となっているが、新幹線の延伸などにより鉄道も重要な役割を担っている。 | 4. 環境負荷を低減する目的から、二酸化炭素排出量の多い航空機の利用が制限されており、鉄道が唯一の公共交通機関となっている。 |
|--|--|---|--|
- 問5 北海道の中央南部に位置し、石狩低地帯の東側から南の襟裳岬方面へと南北に連なる険しい山脈の名称として、最も適切なものを選びなさい。 (2024年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 飛騨山脈 | 2. 奥羽山脈 | 3. 日高山脈 | 4. 赤石山脈 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問6 北海道の北東側に位置するオホーツク海から、冬に沿岸へ押し寄せ、解ける際に多くの栄養分を海に供給する氷の塊を何というか。 (2025年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 1. 親潮 | 2. 季節風 | 3. 流氷 | 4. 寒流 |
|-------|--------|-------|-------|
- 問7 北海道の気候的特色を活かした産業と、それに伴う人口の動きについて述べた文として、正しいものを選んでください。 (2024年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 梅雨の影響を強く受ける夏の気候を利用した稲作が盛んであり、その収穫期である秋にのみ外国人人口が急増する。 | 2. 年間を通して温暖で湿潤な気候であるため、特定の時期に労働者が増減することなく、外国人人口は常に一定である。 | 3. 冬の降雪と夏の涼しい気候が観光資源となり、季節によって外国人人口の割合が大きく変動する要因となっている。 | 4. 冬の降雪が少ないため、一年中安定して工場を稼働させることができ、工業に従事する外国人人口が年間を通して安定している。 |
|---|--|---|---|
- 問8 北海道の人口分布の変遷について述べた次の文のうち、1950年代後半から現在にかけての状況を正しく説明しているものはどれですか。統計上、札幌市の人口は1958年の約48万人から、2018年には約195万人へと、60年間で約4倍に増加しています。 (2021年 宮城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 道内各都市でバランスよく開発が進んだため、札幌市以外の旭川市や函館市でも、札幌市と同等のペースで人口が増加し続けている。 | 2. 1970年代以降、札幌市ではドーナツ化現象による人口減少が激しくなり、現在は1950年代当時の人口規模を下回っている。 | 3. 札幌市の人口は増加したものの、北海道全体の人口増加率がそれを上回っているため、道内における札幌市の人口シェアは低下傾向にある。 | 4. 札幌市への一極集中が進み、道内の他の地域から人口が流入することで、北海道全体の人口に占める札幌市の割合が大幅に上昇した。 |
|---|--|--|---|
- 問9 北海道の石狩平野では、かつて稲作に適さない水分を多く含んだ泥炭地が広がっていました。この土地を農地に変えるために、他の場所から性質の異なる土を運び入れ、もとの土と混ぜ合わせて土壌を改良する方法が行われました。この技術の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。 (2024年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 輪作 | 2. 干拓 | 3. 開拓 | 4. 客土 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問10 2001年から2018年にかけての北海道の酪農に関する統計では、飼育戸数が9640戸から6140戸へと大幅に減少する一方で、生乳生産量は3640.7千から3965.2千へと増加しています。また、100頭以上の牛を飼育する戸数や搾乳ロボットの導入数も大きく伸びています。このような北海道の酪農で見られる変化の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 飼育戸数の減少に比例して全体の生産量も減少し、酪農から畑作への転換が進んでいる。 | 2. 乳製品の需要低下に合わせ、手作業を中心とした小規模な家族経営への転換が進んでいる。 | 3. 労働力不足を補うために、経営規模の拡大や搾乳ロボットの導入による機械化が進んでいる。 | 4. 環境保護の観点から機械の使用を制限し、1戸あたりの飼育頭数を減らす取り組みが進んでいる。 |
|---|--|---|---|
- 問11 北海道のある都市の気候統計において、年平均気温が約8.9度、年降水量が約1106.5mmであり、特に12月や1月の降水量が比較的多いというデータが見られました。この都市が位置する場所として最も適切な条件はどれですか。 (2018年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------|---------------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 1. 北海道の中央部に位置し、海から離れた盆地状の地域 | 2. 北海道の東側に位置し、親潮（寒流）の影響を強く受ける地域 | 3. オホーツク海に面し、冬には流氷が押し寄せる地域 | 4. 北海道の西側に位置し、日本海の影響を受ける地域 |
|-----------------------------|---------------------------------|----------------------------|----------------------------|
- 問12 北海道の根釧台地など、夏の気温が低く稲作に適さない地域で見られる、広大な土地を利用して乳牛を飼育し、生乳やバターなどを生産する農業形態を何といいますか。 (2019年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 1. 酪農 | 2. 稲作単一経営 | 3. 施設園芸 | 4. 果樹栽培 |
|-------|-----------|---------|---------|
- 問13 北海道の産業別就業者数に関する特徴として、最も適切な記述はどれか。 (2025年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|-------------------------------------|
| 1. 大消費地である東京に近いため、近郊農業による第1次産業の割合が全国で最も高い。 | 2. 第1次産業から第3次産業まで、それぞれの就業者割合がほぼ均等になっている。 | 3. 広大な土地で農業が行われているため、第1次産業の割合が全国平均に比べて高い。 | 4. 大規模な工業団地が多く、第2次産業の割合が全産業の中で最も高い。 |
|--|--|---|-------------------------------------|